地域通貨を活用した環境ネットワークの構築に関する包括的研究	
題目	都市の環境評価指標の開発と応用について
著者	早稲田大学　永田勝也、小野田弘士、永井祐二、片野光裕、河合浩利、梶原順、金子正 北九州市産業学術振興局 松岡俊和、NPO 里山の会 関宣昭

1. 研究目的

市民との都市環境情報の共有のあり方や持続可能な都市構築に役立つ意志決定ツールとしてのサスティナビリティ指標の開発を目的としている（図 1）。

2. 研究成果

2. 1　環境コミュニケーション評価

ホームページなどの使い勝手も含めた環境コミュニケーションの評価指標を開発し、評価を行った（図 2）。

2. 2　家庭生活における都市の ELP 評価

産業、交通なども含めることを念頭に家庭を対象とした指標を開発し、相対指標により都市間比較を行った。

2. 3　北九州市の環境パスポート事業（図 3）

北九州市での環境パスポート事業の実証実験を実施し、各メニューの CO_2 削減量を算出し付与ポイントの妥当性について検討した（図 4）。

3. 結　論

3. 1　環境コミュニケーション評価

環境コミュニケーション評価指標を作成し、評価を行った結果、東京都と北九州市のポイントが高くなった。

3. 2　家庭生活における都市の ELP 評価

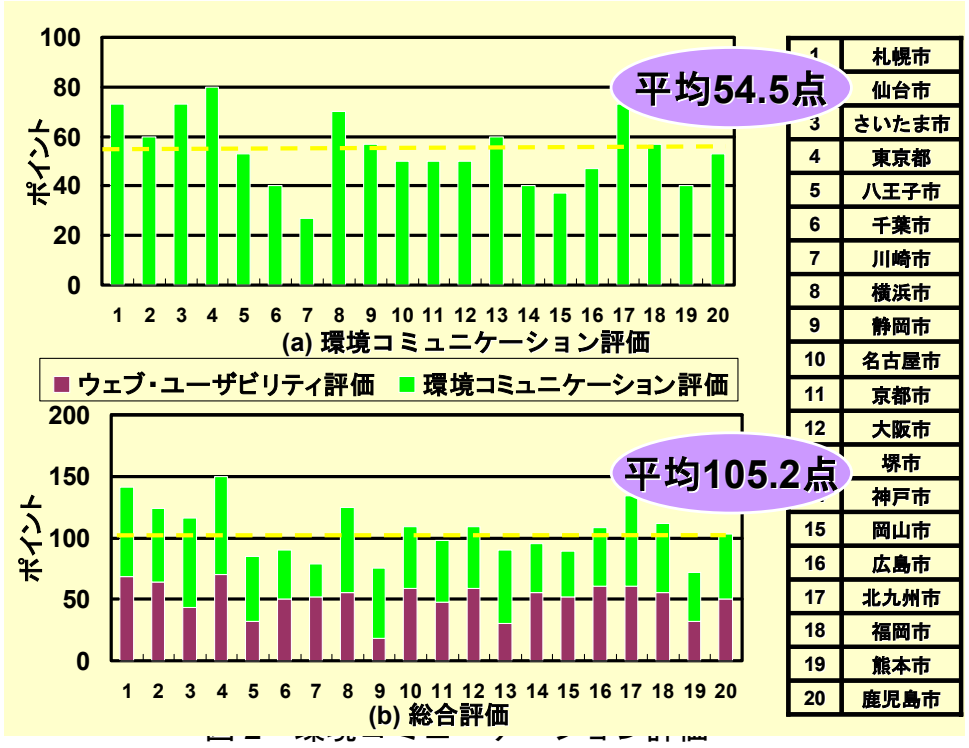
北九州市は上水道使用量を除く全項目において環境負荷が高くなっており、京都市は一般廃棄物の排出量が少なくなっている。

3. 3　北九州市の環境パスポート事業

各メニューの付与ポイントの妥当性について LCA、CO_2 削減量の観点から検討した。

3. 4　その他

環境コミュニケーション評価をもとに、小菅村を例に HP 改善の提案を行った。



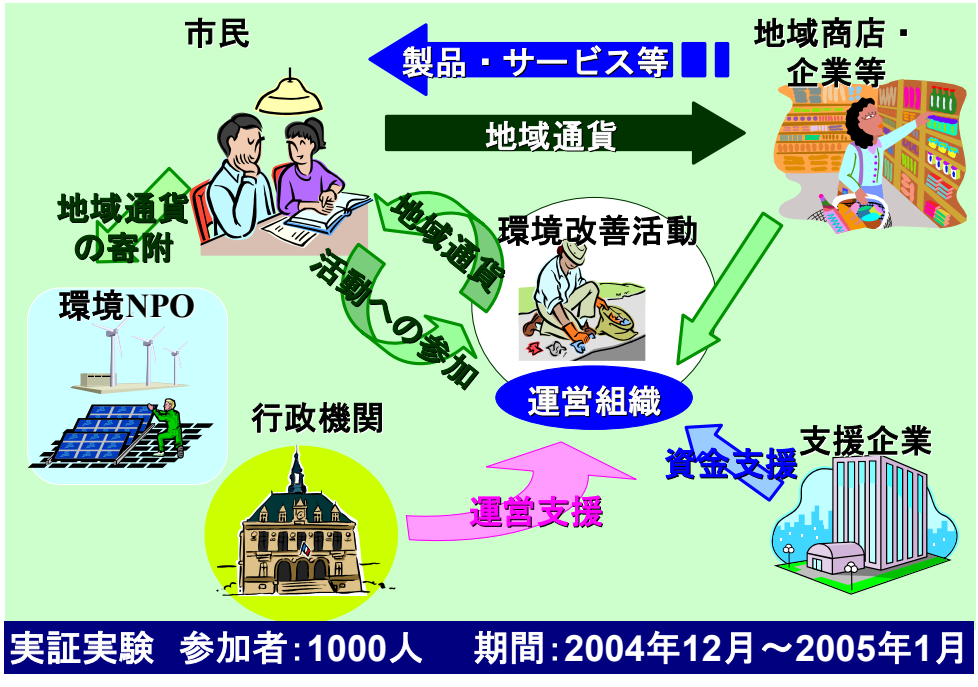


図 3　北九州市環境パスポート事業展開図

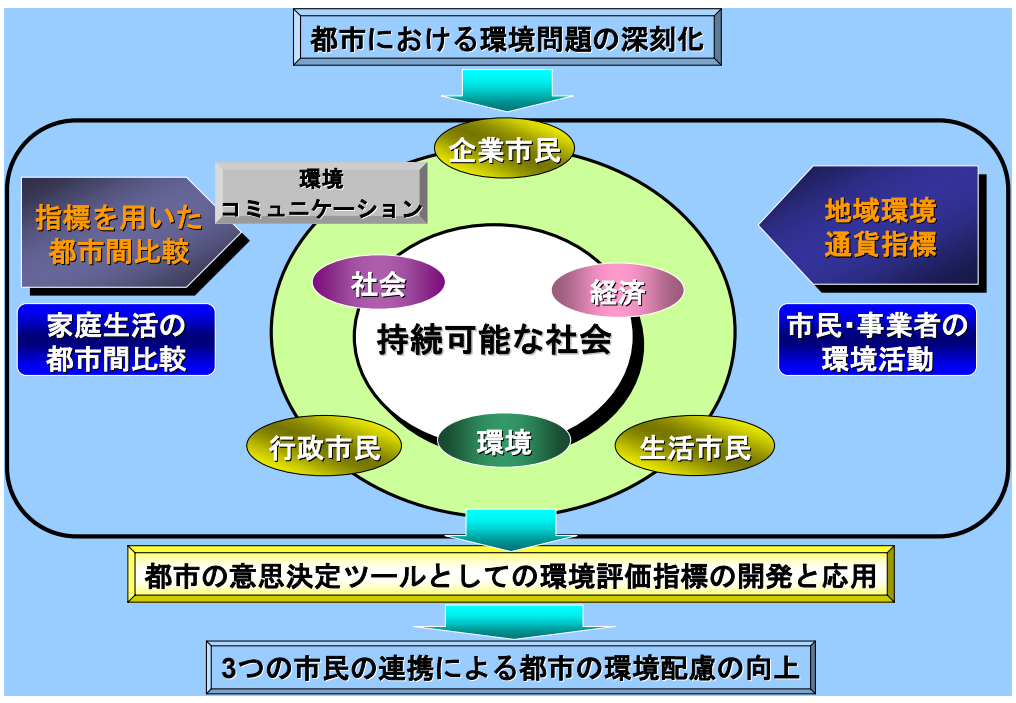


図 1　研究目的

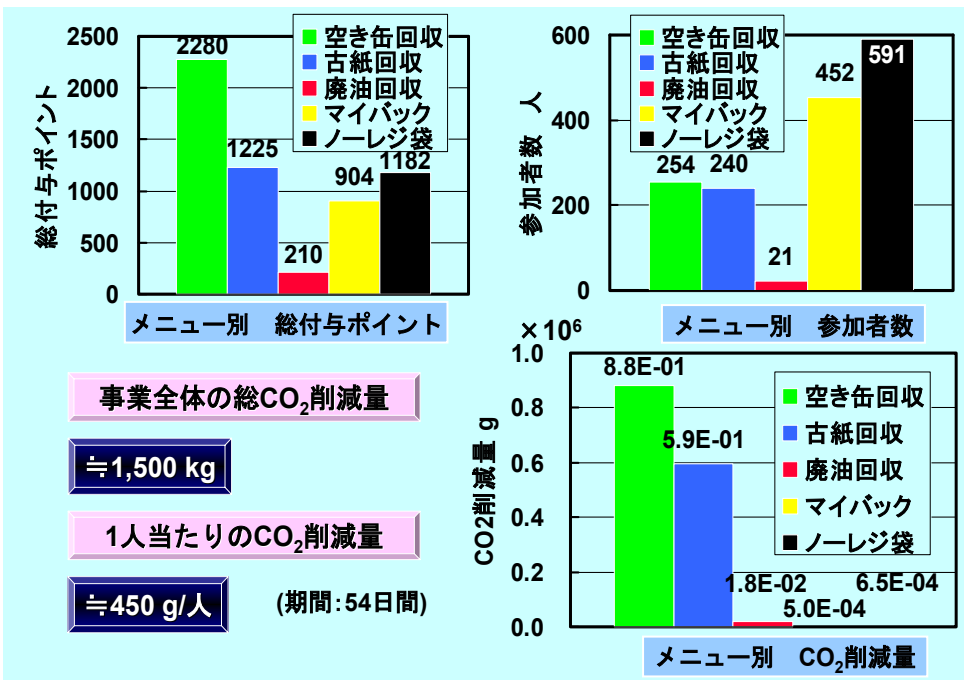


図 4　各メニューの CO_2 削減量結果

本研究は、北九州市の委託事業および平成１５年度オープン・リサーチ・センター整備事業「地域環境情報の可視化によるコミュニティ・ガバナンスの研究」の研究資金によって行われました